



大藏省

佛蘭西政令上帙卷之二

5



114  
A.2790  
2



佛蘭西政令上帙卷之二

第一篇下

國議院

畧紀

現今ノ國議院ハ其基礎ヲエニシエル職ヲ設ケ  
タル第八年霜月廿二日ノ建國法ニ取テ以テ立  
ツルモノナリ同年雪月五日ノ規則ヲ以テ其組  
立方及ヒ其職掌ヲ定メ評議ノ仕方ヲ二種ニ分  
ツ即チ課評議及ヒ總評議ナリ又院中ヲ五課ニ  
分ツ即チ制法 陸軍 海軍 內務 理財

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

大藏省

大藏省

國議院ハ制法政令及ヒ聽訟ノ三職ノ外ニ又法律ノ疑文ヲ定斷スルノ任アリ

第八年結果月七日ノ決定書ハ國議院ノ勤務ヲ二種ニ分ツ即チ平常ノ勤務ト非常ノ勤務トナリ

第十年炎月十六日ノセナテスコニシルトヲ以テ諸省長官ニ國議院ノ評定席ニ列シ評定スル事ヲ許セリ

諸省長官ハ都テ投票ノ多数ニ從ハザルヲ得ザルカ故ニ國議院ニ一等ヲ讓リ其責ニ任スル事

ハ行ハレ難シ

第十一年萌芽月十九日ノ決定書ヲ以テ得業生ヲ置ケリ是ハ諸省長官ト國議院ノ課トノ兩間ニ廁スルモノナリ

千八百六六年六月十一日ノ決定書ヲ以テ聽訟事務ヲ國議院ニ執奏スル為メニ謁者ヲ置キ又其辨理方ヲ指示ス為メニ委負ヲ設ケ又聽訟事務ニ付キ雙方ノ始末書キ及訴答ノ文書ニ調印スル為メ代言人ヲ設ケタリ此決定書ハ猶又課外平常職務ノ國議院ヲ立ツルヲ許シ謁者及得業

生ニモ亦平常非常ノ職ヲ分テリ  
同年七月廿二日ノ決定書ヲ以テ聽訟事務ノ為  
メニ訴訟ノ規則ヲ立タリ即チ方今現ニ行ハル  
、所ノモノナリ

千八百十四年及千八百三十年ノ王國ノ時ハ國  
議院ノ獨立シタルノ本分體裁ハ依然トノ存シ  
タリト雖モ大政ノ一體タルノ體裁ヲ失フタリ  
而メ諸省長官各自其責ニ任スルノ原則アルヲ  
以テ國議院ハ制法ニ參與スルヲ無キニ至レリ  
千八百二十一年二月二日及ヒ三月十二日ノ制

詔ヲ以テ三件ヲ立タリ一ハ集會ノ公明ナル事  
一ハ口舌ヲ以テ討論スル事一ハ國代ヲ立ツル  
事但シ謁者ヲ以テ之ニ輔ス

行法推ノ管下ニ國議院ヲ設ケ置ニハ種々ノ議  
論ヲ來セリ之ニ答フルニハ國議院ハ建國ノ一  
體タルヲ載タル千八百四十五年七月十九日  
ノ法ヲ以スルノ外無他

千八百四十八年ノ建國法及ヒ千八百四十九年  
三月三日ノ法ニ從ヒ國議院ノ眞ハ國會ニテ命  
スルヲ要セリ

國議院ハ制法政令聽訟ノ三課ニ分テリ聽訟課  
ハ獨推ヲ以テ裁決セリ第八年以來職掌ノ爭推  
ヲ知ル事ヲ國議院ニ歸シタレヒ爾後之レヲ爭  
推裁判ト名ツクル格段ノ裁判所ニ歸シタリ此  
裁判所ハ國議院ノ評議役及ヒ駁議裁判所ノ評  
議役ヲ以テ組立テ司法長官ノ首坐スルモノナ  
リ

現今ノ制度

現今ノ制度ヲ學フニ至リ今ノ國議院ハ第八年  
ノ建國法ヨリ基礎ヲ取リタル事瞭然タリ

國議院ノ組立方及ヒ職掌ハ千八百五十二年ノ  
建國法千八百五十二年一月廿五日及三十日ノ  
制詔及ヒ其後ノ制詔ヲ以テ規定セリ

組立方

國議院ノ負ハ帝之ヲ命シ之ヲ廢スルヲ得ベシ  
國議院ノ負ハ左ノ如シ

國議院首坐長官一人

平常職務ノ評議役四十人乃至五十人

是等ハ分課ノ事務及ヒ總會議ニ與ルモノナ  
リ

課外平常職務ノ評議役二十人

是ハ執行事務ヲ司ル者ニシテ即チ總會議ノ

三ニ與ル大書記等ナリ千八百七十年一月十

五日ノ制詔ヲ以テ課外平常職ノ評議役ハ二

十一人ト定メタリ

非常職務ノ評議役二十人

是ハ帝ヨリ格段ノ命令アルニ非サレハ總會

議ニ列スルヲ得ス而シテ執行事務ニ任スル老

評議役ナリ  
重立タル地方ニ出張スル等ノ勤務ヲ為スハ此員ナリ

謁者四十人  
各ニ級ニ別チ

是ハ都テノ事務ニ建議シ得ベク已レカ執奏

シタル事件ニ付キテハ評定シ得ヘシ

得業生ノ數ハ數度變革シテ終ニ八十人ニ至レ

リ其内四十人ツ、二級ニ分ツ千八百六十九年

十一月三日ノ制詔ヲ以テ向後得業生ノ總數ハ

四十八人ヲ踰エ可カラザル事ヲ定ム一級ヲ三

十二人ニ級ヲ十六人ト定メ年々二級ノ得業生

ヲ命スル事八人以上ニ及ブ可カラズ一級ノ得

業生ハ二年間二級ノ得業生ニ任シタル者ヲ舉

ク得業生ノ職ハ俸ヲ受ル他ノ職ヲ兼ヌ可カラ

大藏省  
不在職六ヶ年ヲ過キテ本官ニ登ラサルモノハ  
國議院ノ員タルヲ止ム得業生ハ我カ属スル所  
ノ課ノ事務ニ加ハリ已レノ執奏シタル事件ニ  
付キテ建議スルヲ許ス帝王自ラ総會議ニ臨ム  
時別段ニ此會ニ列スルノ命アル時ハ一級ノ得  
業生ハ此會ニ列シ得ベシ一級得業生ハ俸ヲ受  
ク

得業生トナル者ハ年齢二十歳ニ至リ大学校  
ニ於テドノテール或ハリサンシエーノ免許  
状ヲ受ケ國議院ノ評議役三人ニテ組立タル

誠業委員ニ於テ許サレタル者ニ限ルベシ  
此誠業ヲ受ル者ハ帝王ノ認定セル名簿ニ預  
メ名ヲ記シタル者ニ限ルベシ

千八百五十三年十一月廿五日ノ決定書ニ從  
ヘハ我カ課ノ應スル所ノ省ニ附属シ得ベシ  
又事務ノ辦理方ヲ指示ス為メ或ハ州知事評  
議所ノ會議ニ列シ建議スル為メ或ハ聽訟事  
務ニ付キ此評議所ノ國代職ヲ勤ムル為メニ  
重立タル州廳ニ附属スルトモ亦得ベシ

大書記一人

是ハ評議役ト同等ニシテ總會議ノ時ニ筆ヲ  
執リ記録ヲ守リ諸文書ノ寫ヲ驗真ス且ツ課  
毎ニ屬スル書記及ヒ他ノ職負ヲ支配ス  
諸省長官ハ國議院ニ列シ討論シ得ベシ  
貴族ハ年齢十八歳ニシテ帝ノ許ヲ受タル者ハ  
國議院ノ員タルヲ得ベシ  
國議院ハ帝自ラ之ニ臨ム若シ帝自ラセザレハ  
首坐長官之ニ臨ム  
國議院ニハ代言人及ヒ使吏アリ是等ハ駁議裁  
判所ニ於テ其職ヲ奉スルモノナリ

國議院ヲ六課ニ分ツ即チ制法司法及ヒ外務  
聽訟 內務教育及宗教 理財 耕作貿易工業  
及技藝 海陸軍ナリ

職

國議院ノ職ハ制法政令及聽訟ナリ此三職皆独  
断ノ推ヲ有セス唯ニ意見ヲ述ブルノミナルカ  
故ニ決断ニ至テハ常ニ帝ノ許可ヲ要スルナリ  
此ノ如ク三職ヲ分ツハ評定ノ仕方ニ付キテ益  
アルヲ以テナリ  
制法事務ハ其ノ事務ノ屬スル課ニ於テ審訂シ



タル後總會議ニ掛ク

政令事務ハ一課ノ中ニテ議決スル事アリ或ハ  
總會議ニ於テ議決スル事アリ

聽訟事務ハ聽訟課及ヒ總會議ニ於テセス之レ  
カ為メニ別ニ一ノ評定所ヲ設ケテ以テ評決ス

### 制法職

國議院ノ制法事務ニ關係スルハ諸省ニ於テ作  
リタル法按ヲ授定スルト制法官及上院ニテ其  
法按ヲ護論スルト政府ト制法官ノ委員ト異論  
アル時ニ交換スベキ个条ニ付キテ意見ヲ述ブ

ルトニアリ

國議院ハ帝ヲ企タルセナテスコニシルト及ヒ  
代法制詰ヲ作ルニ參與ス

法律ノ疑文ヲ審定スルノ權ハ曾テ國議院ニ歸  
シタリト雖モ爾後久シク此權ヲ剥キテ今ハ制  
法官ニ歸シタリ

### 制法事務ニ付國議院ノ評定

法案セナテスコニシルト及ヒ代法制詰ハ其事  
務ノ屬スル課ト制法課ト合併シテ之ヲ審訂シ  
然ル後總會議ニ於テ評定ス

政令職

國議院ノ政令職ハ政令ノ諸機務ニ管ス

安寧ノ条ニ付テハ左ノ件々ニ管ス

船艦捕抑ノ正不正ヲ決定スル事 政府ノ官負

ヲ裁判スルノ許可 官負ニ對シテ取締ノ方法

ヲ立ルヲ命スル事 貿易裁判所ヲ建ル事 裁

判所中ニ於テ假リノ評議所ヲ起シ或ハ之ヲ連

續セシムル事 外國人ノ入籍ヲ許ス事 外國

人ノ佛蘭西國ニ居住スルノ許シヲ止メ或ハ之

ヲ变换スル事 第十一年前芽月十一日ノ法律

中ニ載セタル規則ニ從ヒ改名ヲ許ス事

改名願書ハ司法長官ニ宛テ日誌ニ記載シ國

議院ノ制法課ニテ吟味ス改名ヲ許スノ命令

書ハ法律ノ全輯ニ編入シ置キ一ケ年ノ後ニ

至リテ行フベシ是ハ關係アルモノニ拒ム事

ヲ許スカ為メナリ

便利ノ条ニ付キテハ左ノ件々ニ管ス

公用買上ノ事件ニ付キ公用ノ布令 公用買上ハ

リ 礦山ノ請負ノ許シ 沼地ヲ乾カス事 國

街道ノ登級及ヒ敷級 道路ニ種々ノ區別 工業

裁判所ヲ立ル事 生命請負會社ノ如キ社ヲ設  
クル事 會所開キヲ許ス事

教化ノ条ニ付キテハ左ノ件々ニ管ス

法皇ヨリ出ス所ノ諸文書ノ記録 僧俗ノ非義

ノ訴下帙ニ  
詳ナリ 宗教結社ノ許シ及ヒ其教則ノ吟

咏等ナリ

慈惠ノ条ニ付キテハ左ノ件々ニ管ス

慈惠ノ建設 典物所 積金預リ所其他公用ト

ナルベキ建設ト認定シタル保救ノ社ヲ起ス事

國或ハ州或ハ里或ハ里ノ建設及ヒ其他ノ諸

建設ニ寄附スル贈遺物ヲ受クル事

此贈遺物ハ其親族ヨリ後日ノ求メノ有無ト

其金高トニヨリテ區別アリ後ニ記スベシ

經濟ノ条ニ付テハ左ノ件々ニ管ス

國領品ノ授與 諸里ニ於テ閭稅ヲ立ツルノ許

可

往時制法官ニ於テ諸省歳出ヲ各省ノ簿冊ノ篇

毎ニ配當シテ投票セシ頃ハ篇毎ニ投票シタル

定額ヲ一篇中ノ諸章ニ分配スルト一章ニ供ハ

タル金額ヲ他章ニ流用スルトトヲ許可スルノ

任ハ國議院ニ歸シタリト雖モ千八百六十九年  
九月八日ノセナキスコニシルトヲ以テ各省ノ  
歳出ハ章毎ニ投票シテ篇毎ニ投票セシメズ依  
テ國議院此職ヲ失ヘルトハ統計官ヲ説クニ至  
リテ之ヲ見ルベシ  
給乏金及非常金ヲ起スハ曾テ國議院ニ歸シタ  
リト雖モ千八百六十一年十二月三十一日ノセ  
ナキスコニシルトヲ以テ此金額ヲ投票スルノ  
權ヲ制法官ニ托シタリ

政令ニ付キ國議院ノ評定

政令ニ付テハ國議院ハ或ハ課中ニ於テ評定シ  
或ハ課中ニ於テ預メ之レヲ審訂シ然ル後總會  
議ニ於テ評定ス  
課中ニ於テ評定スル事件左ノ如シ  
改名ヲ許ス事 五萬フラン以内ノ親族ヨリ  
求アル贈遺ヲ受ル事 外國人入籍ノ事 外國  
人佛國居住ノ許可ヲ止メ或ハ変スル事 國領  
ノ水ヲ分水スルノ許可 絹毛及ヒ其他ノ紡織  
ニ供ス可キ物ノ乾晒ノ取締所ヲ立ル事 行人  
ヨリ渡リ錢ヲ取リテ橋梁ヲ造ル事等ナリ

惣會議ニ於テ議スベキ事件ハ左ノ如シ  
 船艦捕抑 官負取締ノ方法 公業ノ許可 礦  
 山ノ請負ノ許可 官負ヲ裁判スルノ許可 僧  
 俗非義ノ詐等ナリ  
 元來課中ニ於テ評定ス可キノ事件ナリト雖モ  
 政府或ハ課ノ主長之ヲ總會議ニ於テ議スル  
 ヲ欲スル時ハ總會議ニ於テ評定ス可シ  
 各課ニ於テ評定スルニハ少クモ評議役三人ノ  
 出席ヲ要ス簿書ニ冊ヲ備ヘ一ハ至急事務ヲ記  
 一ハ通常ノ事務ヲ記ス一事毎ニ課長ハ一人

ヲ撰ヒテ上申ヲ司ラシム

總會議ニテ評定スルニハ諸省ノ長官ノ外ニ會  
 議ニ於テ評定スルノ推アル者二十人ヲ下ル可  
 ラス投票匹敵ナル時ハ首坐長官ノ組スル方ヲ  
 取ルベシ  
 審訂スベキ事件ハ必ス簿書ニ記ス簿書ニ冊ア  
 リ一ハ大事ヲ記シ一ハ小事ヲ記ス總會議ニ執  
 奏スルハ事ノ大小ニヨリテ評議役ニテ為ス事  
 アリ謁者ニテ為ス事アリ  
 國議院ノ承諾ト記シタル決定書ハ必ス總會議

ヲ經ルモノニ限ルベシ課限ニテ為シタル決定  
書ハ事務ノ歸シタル課ノミヲ記ス

### 聽訟職

國議院ノ聽訟職ハ裁判職ト同體ナリ故ニ此職  
ニ居テハ權利ヲ侵サレタルノ理ヲ以テ告ル所  
ノ訟ヲ裁判ス

國議院ノ裁判ノ體裁ニ三種アリ一ハ駁議裁判  
所ノ體裁ヲ以テシ一ハ上告裁判所ノ體裁ヲ以  
テシ一ハ初終審裁判所ノ體裁ヲ以テス

駁議裁判所ノ體裁ヲ以テスル時ハ駁議裁判所

ク職掌ト同ク左ノ件々ヲ裁断ス

第一政令官署ノ裁判ノ争權即チ聽訟事務ニ付  
キ政令官署ノ間ニ起レル職ノ適當不適當ノ争

### 論

政令官署ト司法官署トノ間ニ起レル職掌争  
權ヲ知ルモ亦國議院タル事ヲ下帙ニ見ル可  
シ

第二不適當及ヒ越權ノ上告

此告訴ニ付キ注意ス可キ事アリ

第一執行事務評議事務及ヒ聽訟事務ノ官ヨリ

出ス所ノ諸決定ハ一般ニ此上告ヲ許シタリ故  
ニ長官ノ決定或ハ州會ノ定論ニ不適當ナル事  
或ハ推ヲ越タル事アル時ハ上告ス

第二終審ノ決定ニ付キテ上告ス可キノミナラ  
ス上告ヲ受ク可キ決定ニ付キテモ等ヲ越エテ  
上告シ得ベシ故ニ州知事ノ決定書ハ不適當或

ハ推ヲ越タル事アル時長官ニ上告セズ直ニ國  
議院ニ上告シ得可シ

第三此上告ハ國議院ニ代言人ヲ立テス

第三聽訟事務ニ付作りタル終審ノ決定其式或

ハ法律ニ従ハサルノ理ヲ以テノ告訴

此上告ハ此ニツノ道理ヲ推シテ法律文面ヲ  
以テ上告ヲ許シタルモノニノミ過ス是ヲ以  
テ見ル時ハ民事ニ付キテ駁議ヲ請求スルモ

ノト其差別判然タリ

此ノ如クシテ上告ヲ受ク可キ終審ノ決定ハ  
統計官ノ決定及ヒ常住募兵ノシリノ決定  
ノミニシテ兵士及ヒ行役募兵ノシリノ決

定ハ上告スルヲナシ

上告裁判所ノ体裁ヲ以テ國議院ノ裁断スルモ

ノハ初審ノ裁決ニ悖リテ起シタル告訴ナリ即  
チ左ノ如シ

第一州知事評議所ノ裁決

里及ヒ三萬フランクヲ過キサル歳入アル諸  
建設ノ收納役ノ會計ニ付キ州知事評議所ニ  
於テ初審裁決ヲナシタル時ハ統計官ニ上告  
シ國議院ニハ上告ス可ラズ

第二長官ノ裁決

第三州知事ノ裁決

是ハ法律中ニ國議院ニ上告スベシト記載シ

タル事件ノミニ限ル

礦山ノ事件ニ付キ鉄ヲ取ル可キ場所ヲ開キ  
或ハ買取ルニ開業人ノ占メ開キ得ベキ土地  
ノ廣狹ヲ定ムル事ヲ州知事ニ許シタル千八  
百十年四月廿一日ノ法ノ六十四個条ニ上告  
スルヲアリト記シタリ  
若シ國議院ニ直ニ上告スル事ヲ別段ニ法律  
中ニ記載セサレハ先上司ニ上告スベシ而シ  
テ猶上司ノ裁決ニ悖フ時ハ國議院ニ上告シ  
得ベシ



若シ不適當或ハ權ヲ越エタル事アル時ハ直ニ國議院ニ上告スル下前ニ説ク如シ

第四沿地乾水ノ事件ニ付キ出セル千八百七九年九月十六日ノ法律ヲ以テ公業ノ為ニ立タル特別ノ委員ノ裁決

工業會社ニ付キ出セル千八百六十五年六月廿一日ノ法律ヲ以テ工業會社ニ於テ興スベキ工業ノ事件ニ付キ裁決スル為ノニ州知事評議所ヲシテ特別ノ委員ニ代ラシメタリ初終審裁判所ノ体裁ヲ以テ國議院ノ裁斷スル

事件左ノ如シ

第一バンクドフラン為替會社ノ名ニスニ拘ハル法律及

規則ヲ犯セル罪科及ヒ其取締或ハ其内部ノ支配ニ拘リテ起レル争訟

第二帝家ノ用度ニ拘ハル事件

聽訟事務ニ付キ評定及訴訟ノ方法

此个条ニ付キテハ從來ノ沿革ヲ知ラサル可カラス

國議院ノ起立第八年ヨリ千八百六年迄ノ間ハ聽訟事務ノ評定ノ方法ハ政令事務ニ於ル如ク

先ツ事務ノ属スル課ニ於テ審訂シ然ル後總會  
議ニ於テ評定セリ

千八百六年ヨリ千八百三十一年ニ至ル迄ノ間  
ハ千八百六年ニ出シタルニツノ制誥ヲ以テ評  
定及ヒ訴訟ノ方法ヲ制定シ之ヲ行ヘリ

千八百六年ハ民事ノ訴訟法ヲ作りタル年ナ  
リ故ニ國議院ニテ守ル可キ規則ハ多分民事  
訴訟法ノ規則ニ似タリ

ニツノ制誥ハ左ノ如シ

千八百六年六月十一日ノ制誥ハ聽訟事務ノ委

員ヲ立テ之レニ聽訟事務ノ辦理ノ方法ヲ制定  
スル事ヲ任シ執奏ヲ謁者ニ托シ代言人ヲ置キ  
之レニ双方ノ代ヲ為サシメ及ヒ双方ヲ辦理ノ  
方法ニ誘導セシム

同年七月廿二日ノ制誥ヲ以テ事務ノ辦理ノ方  
法ヲ制定スルニ付キ守ル可キ規則ヲ定メタリ  
是ハ國議院ノ訴訟法ト云フ可キモノニシテ今  
日猶行ハル、モノナリ

千八百三十一年ヨリ千八百四十九年迄ノ間ハ  
千八百六年ノ制誥ノ諸件ヲ変更セリ

千八百三十一年ニハ聽訟事務ニ三件ヲ加ヘタ  
リ即チ傍聞ヲ許ス事口舌ヲ以テ討論スル事國  
代ヲ立ル事  
事務ハ聽訟課ニテ辨理ノ方法ヲ審訂シ然ル後  
總會議ニテ評定ス

千八百四十九年ヨリ今日迄ノ間ハ左ノ如シ  
千八百四十九年ニ於テ聽訟事務ニ付テ裁決ス  
ル事ヲ聽訟課ノミニ任セリ故ニ其裁決ハ民事  
裁判所ノ裁決ノ如ク國主ノ許可ヲ要セスミテ  
確乎タルモノナリ故ニ國議院中此課ニ限リ特

權ヲ以テ裁決スルノ權ヲ有セリ

千八百五十二年ニハ聽訟事務ノ評定ニ付キ前  
ノ數件ヲ折衷シ以前ノ如ク裁決スルニ國議院  
ノ總會議ニ於テセス亦千八百四十九年ニ於ケ  
ル如ク課限リニ於テセズ聽訟事務課ノ普長或  
ハ國議院首坐長官ノ首坐セル別段ノ評定所ニ  
於テセリ  
別段ノ評定所ハ聽訟事務課ト他ノ五課ヨリ課  
毎ニ取ル所ノ各二人都テ十人ノ員トヲ以テ組  
立ルモノナリ

大藏省  
聽訟事務ニ付キテノ裁決ハ千八百四十九年ニ  
於ケル如ク確乎タルモノニアラス帝ノ許可ヲ  
要スルモノナリ依テ聽訟事務ニ於テモ亦他ノ  
事務ニ於ケル如ク國議院ハ獨斷ノ權ナク常ニ  
帝ノ許可ヲ要ス故ニ此決定モ亦帝ノ許可ヲ得  
テ始テ國議院ニ於テ制シタル制誥ノ名ヲ取ル  
ナリ

### 訴訟ノ規則

訴訟法ニハ請願辨理裁判ノ三事ヲ含ム  
請願ニ拘ハリテハ平民ヨリ出シタル事件ト長

官ヨリ出シタル事件ハ區別セサル可カラス  
第一 平民間ノ爭論ニ付願人ハ國議院ニ代言人  
ヲ立テ代言人ハ記錄所ニ双方ノ名前及ヒ住所  
ヲ記シタル願書及ヒ始末書及ヒ證據ノ个条書  
ヲ置クベシ

此例ヲ用ヒズ代言人ヲ立テザル件々左ノ如  
シ

第一 直稅ノ事件 第二 撰舉ノ事件 第三 荷  
車取締ノ事件 第四 不適當及ヒ權ヲ越エタ  
ル道理ヲ以テスル告許及恩録ノ事件是ハ千

八百六十四年十一月二日ノ決定以來ノ事ナ  
リ 第五州知事評議所ニ適當スル違反是ハ  
千八百六十五年六月廿一日ノ法以來ノ事ニ  
シテ専ラ大道取締ノ違反ヲ云フ

聴訟課ノ首長ハ一人ヲ命シテ執奏ノ事ヲ司ラ  
シム而シテ其課ノ評定ニ從テ願面ヲ被告人ニ通  
スル事ヲ原告人ニ命スル為メニ通達ノ命令書  
ヲ作ル

此命令書ハニケ月中ニ被告人ニ報知ス可シ被  
告人ハ代言人ヲ立テ国議院ニ於テ討論セシム  
可シ被告人ニハ答辨スルタメ相當ノ時限ノ許  
シ有リ原告人ハ被告人ノ答ハニ對シテ更ニ願  
書ヲ出シ得可ク被告人ニモ亦再ヒ答辨スルノ  
權ヲ許ス

第二官府ト平民トノ間ニ起レル争訟ハ官府原  
告ナレハ長官ヨリ告達シ被告人ニ通達スルハ  
政令上ノ体裁ヲ以テス平民原告ナル時ハ代言  
人ノ調印セル訴状ヲ差シ出シタルノミヲ以テ  
長官ニ報知シタルト同様ナリトス如此ニシテ  
此両間ノ争訟ニ付テハ何レカ原告ナリトモ都

テ通達ノ命令書ヲ作ルヲ用ヒズ  
 國議院ニ上告スルハ決定書ノ布令ノ日ヨリ二  
 个月ノ期限内ニ於テスベシ尤民事訴訟法ノ七  
 十三條ニ從ヒ佛國ノ本部内ニ居住セサル者ハ  
 期限ノ加増アルベシ  
 平民間或ハ平民ヨリ官府ニ報知スルハ使吏ヲ  
 以テスベシ官府ヨリ平民ニ報知スルハ政令上  
 ノ体裁ヲ以テスベシ即チ省ヨリ吏ヲ以テ達ス  
 ルカ或書面ヲ以テ達スルナリ  
 國議院ハ上告裁判所ノ体裁ヲ以て裁決スル時ト

雖モ決定シタル處断ヲ行フノ期限ニ至リ上告  
 ノ故ヲ以テ之ヲ止ムルヲ得ズ但州及里ノ撰奉  
 ニ於テ充撰人州知事評議所ニテ除名サレタル  
 冤枉ヲ上告スル時ハ此例ニアラズ  
 聽訟事務ノ辨理方ニ管シテハ本課ニ於テ先ツ  
 其事務ヲ容室ニテ審訂ス此課ノ人眞ハ首長評  
 議役并セテ六人外ニ謁者及得業生ナリ  
 評定スルニ當リテハ評定ノ権アルモノ少クモ  
 四人列坐スベシ  
 聽訟事務課ハ國議院ノ首坐長官首坐スルナリ

シ此課ニ於テモ亦他課ノ如クニツノ簿書ヲ具  
ヘ至急事務ト平常事務ヲ分チ記ス

聽訟事務課ハ先ツ其事務ノ辦理ノ方法ヲ創草  
シテ然ル後執奏ノ狀ヲ作ル執奏ノ時ニ起レル  
評議ハ公會ヲ起スノ四日以前ニ双方ノ代言人  
ニ告知スベシ

聽訟事務ニ付評定スル所ノ別段ノ評定所ニ於  
ル執奏ハ公明ナリ

代言人ハ我カ意見ヲ口述ス謁者モ亦政府ヲ代  
メ以テ我カ意見ヲ口述ス

聽訟事務ヲ裁判スルニハ少クモ評定ノ權アル  
モノ十一人ヲ要ス投票匹敵ナル時ハ議長ノ加  
ハレル方ヲ取ル

此公會ニ於テハ決裁書ノ草按ヲ制定ス尤此決  
裁書ハ帝ノ許可ヲ要スルナリ

國主ハ國議院ニ於テ評定シタル決裁書ノ草案  
ヲ覆制シ得ベシ若シ覆制シタル時ハ必ズ日誌  
ニ加ヘ且ツ法律全輯ニ編入スベシ

千八百四十五年ノ法律ニ依レバ國主ノ制誥ハ  
道理ヲ述べ及ヒ長官ノ評定ニ掛クルヲ要セリ

國議院ノ評定ノ後ニ作りタル決裁書ハ聽訟事務ニ付キ國議院承諾スト記シ司法長官之ニ連印ス此決裁書ニ載スル所ノモノハ檢証裁決及ヒ條例ナリ

聽訟事務ニ付キ裁決シタル決裁書ハ裁判所ノ公裁ト同一ナルモノニシテ收納抵當引當トシテ不動産ヲ取り收ムルノ權ノ權及ヒ人ヲ制縛スル事ヲ來ス可シ

聽訟事務ノ裁決ヲ破壊スルノ道

聽訟事務ノ裁決ヲ破壊スルノ道ハ左ノ如シ  
決裁書ヲ抗傳シテ拒ム事

此拒ミ方ハ千八百六十四年以來決定ノ報知ヨリ二ヶ月ノ期限内ニ於テ為スベシ  
此拒ミハ裁決ヲ行フヲ止ムルニ非ス

再審ヲ請求スル事

是ハ民事ノ願ト同様ニシテ贋造ノ証據ニ因テ作ルカ或ハ大切ナル式ヲ經スシテ作ルカノ決裁書ヲ破ル為メニナス是亦千八百六十四年以來二ヶ月ノ期限トス

旁告人ヨリ拒ム事

是ハ定限ナケレハ三十年ノ間ハ訴へ出ルヲ



得ベシ

罪ノ言渡シヲ受タル方ノ代言人ニ前以テ報知  
ナクシテ決裁ヲ行フ可ラス代言人ヨリ代言人  
ヘノ報知及ヒ巴里居住ノ双方ニ報知スルハ國  
議院ノ使吏ヲ以テ為スベシ

費用ハ千八百二十六年一月十八日ノ命令書ヲ  
以テ制定シタル規則ニ從テ拂フベシ

費用ヲ償フノ規則ハ民事訴訟法ノ規則ト同様  
ナリ而シテ政府ハ曾テ費ヲ拂フヲナシ然ルニ  
官署ノ公領ニ代人トナリテ護論スル争訟及ヒ

官署ノ用品買入ノ約定ニ付キテノ争訟或ハ第  
八年兩月廿八日ノ法ノ四ヶ条ヲ以テ告知セル  
公業ノ發起ニ關係シタル争訟ニ付キテハ民事  
訴訟法ノ百三十条及百三十一條ニ從フベシト  
千八百六十四年十一月二日ノ制誥ヲ以布令セ  
リ

### 統計官

#### 統計官ノ畧紀

千七百八十九年以前ハ巴里府及ヒ州中ニ會計  
ヲ審訂シ及裁判スル為ニ會計所ヲ設ケタリ此

會計所ハ刑事裁判モ亦任セリ 會計所ハ一個所  
ヲ巴里ニ置キ九

分置セリ

ル由ト十一世ノ命令書ニ從ヘハ巴里ノ會計所  
ハ大政及ヒ政令ニ屬スル兩職ヲ兼子タリ

大政ニ拘ハル會計所ノ職ハ集議院ト共ニ理財  
及ヒ王領ニ管スル制誥等ヲ記録シ及ヒ正定ス  
ルニ在リ

政令ニ拘ハル職ハ王領ニ拘ハル文書ヲ守リ及  
ヒ王國ノ會計ヲ検査スルニ在リ

千七百九十一年ニハ會計所ヲ都テ廢止シ更ニ

十五人ノ員ヲ以テ組立タル計算司ヲ設テ此司  
ノ執奏ニヨリテ議政官ニ於テ會計ヲ檢セリ此  
十五員ハ王ヨリ命スルモノニシテ之ヲ五課ニ  
分テリ

千七百九十三年ノ建國法ヲ以テ此計算司ヲ廢  
シ行法權ヨリ命スル所ノ検査役ト制法權ヨリ  
命スル所ノ監察役トヲ立テ之ニ代ラシメタリ  
第三年ノ建國法ヲ以テ出納委員及ヒ會計委員  
ヲ立タリ其人員ハ各五人ナリ此五人ハ五百人  
ノ院 院下ヨリ出シタル名簿中ニ於テ長老院ノ撰

フ所ノモノナリ而シテ會計事務ヲ規定スルノ  
任ハ常ニ制法官ニ歸シタリ  
第八年ノ建國法ヲ以テ七頁ヲ以テ組立タル全  
國會計ノ委員ヲ設ケタリ此七頁ハ上院ニ於テ  
撰舉シ歳入出ノ會計ヲ検査シ及規定スル事ヲ  
任シタリ此時ニ至リテ未タ全ク不羈獨立ノモ  
ノニハ非サレド始テ全國ノ會計ヲ總括スルヲ  
得ルニ至レリ

千八百七七年九月十六日ノ法及ヒ同月廿八日ノ  
制詰ヲ以テ統計官ヲ起シテ之レニ裁判ノ權ヲ  
モ托セリ是即チ現今ノ統計官ノ起立ナリ  
裁判ノ權ノ歸シタル体裁ハ最前ノ會計所ニ似  
タリ總括ノ状態ハ全國會計委員ニ似タリ  
千八百六十二年五月三十日ノ制詰ヲ以テ會計  
事務ニ付キテノ諸規則ヲ輯録セリ此制詰中ニ  
載スル所ノ規則ハ八百八十三條ヨリ下ラズ  
是ヨリ以下官ノ組立裁判ノ職及諸省長官ノ諸  
勘定ヲ検査スルノ職ヲ説クベシ

### 組立

統計官ヲ組立ツルハ左ノ如シ

官長一人課長三人評議役十八人正算役八十四人此内二十四人ハ第一等六十人ハ第二等十人得業生二十五人之ヲ二級ニ分チ一級十五人二級十人トス大監察一人記録長一人猶配下ノ記録者数負アリ

統計官ノ負ハ都テ帝ヨリ命ス得業生大監察及ヒ記録長ノ三職ヲ除クノ外ハ都テ廢弁ス可ラサレノ職ナリ

官長評議役大監察及ヒ記録長ノ職ニ充ルモノハ滿三十歳ノ者ニ限ルベシ

二等正算役トナルモノハ二十五歳以上ノ者ナルベシ二年間其職ニ居ルモノニ非サレハ一等ニ登ル可カラズ其一等ニ登ルニハ半ハ才ヲ撰ビ半ハ任ヲ数フ

二級得業生トナル者ハ年齢二十一歳ヨリ二十八歳迄ノ者ヲ要シ且ツ法律学校ニ於テリサニシエーノ級ニ登リ試験委員ノ免許ヲ受タルモノニ限ルベシ

試験委員ハ評議役一人一等正算役一人二等正算役一人及全國ノ総計ヲ司ル所ノ職員二人ヲ

以テ立皆理財長官ヨリ命スル者ナリ試験ヲ受  
クベキ人ノ名簿ハ理財長官之レヲ認定ス  
ニ級得業生ヲ一級ニ登庸スルモ亦才ヲ撰フト  
任ヲ數フルト相半ス一級得業生ハ二等正算役  
ノ職務ヲ半ハ助勤ス

統計官ヲ三課ニ分チ第一課ハ歳入會計ヲ裁判  
シ第二課ハ歳出會計ヲ裁判シ第三課ハ里及ヒ  
諸建設ノ歳入歳出ノ會計ヲ裁判スルノ任アリ  
課毎ニ課長一人及ヒ評議役六人アリ而シテ官  
長ハ各課ニ首坐シ得ベシ評議役ヲ三課ニ分ツ

ハ即チ官長ノ任ナリ

千八百六十二年五月三十一日ノ制詔ヲ以テ各  
課互ニ相交換スル事ヲ命セリ毎年各課中ヨリ  
二人ヲ派出シ他ノ兩課ニ分入シテ以テ互ニ交  
換セシム事務ノ便宜ニ依リテハ二人共ニ一課  
ニ入ルナリ

官長ハ其官ヲ取締リ及ヒ監察スルノ任アリ會  
計事務ヲ正算役ニ分賦シ及ヒ其呈奏スベキノ  
課ヲ指令ス

正算役ハ課ニ屬スル事ナリ官長ノ已レニ分賦

シタル事件ヲ官長ノ指令シタル課ニ呈奏ス而  
シテ自ラ呈奏シタル事件ナリト雖モ敢テ之ニ  
付キテ評定スルノ權ナシ  
バトビー氏曰ク正算役ハ課ニ屬セザル者ナル  
カ故ニ若シ之ニ評定ノ權ヲ與フレハ裁判ヲ惑  
ハサントヲ恐レテナリト  
得業生ハ官長ノ配下ニアリテ會計ヲ正訂スル  
為メニ正算役ニ附屬スルモノナリ  
得業生ハ奏狀ヲ草スルヲ司ル千八百六十年十  
二月十二日ノ制詔以來四今年在職ノ後ハ十五

人丈ケハ自ラ直ニ課ニ呈奏スルヲ帝ヨリ許  
スナリ  
大監察ハ取締リ及ヒ監察スルノ職ナリ然ルニ  
事務ヲ監察スルニハ必ラス官長ニ請求ス  
大監察ハ統計官ニ勘定書ヲ差出スベキ諸勘定  
役ノ名簿ヲ作ラシメ法律及ヒ規則ヲ以テ定メ  
タル期限内ニ勘定書ヲ差出シタルヤ否ヤヲ審  
訂シ若シ延期ニ及フ者アレハ之レニ罰ヲ與ヘ  
ンヲ求ム  
大監察ハ諸勘定ヲ知り得可シ然ルニ大監察ノ

必ス知ラサル可カラザルノ事件アリ即チ其目  
ヲ左ニ掲ク

第一勘定役ノ保證金没収ヲ止ム事或ハ没収ヲ  
他品ニ移ス事ノ如キ取捨ノ諸願

第二統計官ノ決定書ヲ再審ノ請願

第三正算役ヨリ勘定役ノ重斂及ヒ誑賺アリト  
疑ヲ起シタル事件

大監察ハ諸省長官ト相通シ長官ヨリ求ムル所  
ノ事件ニ付キ教示スベシ

記録長ハ總會議ニ列坐シ會議ノ事件ヲ書記ス

及ヒ勘定書ヲ出シタル時之レヲ記録ス決定書  
ノ本書ヲ守リ又統計官ノ文書ノ寫或ハ抄録等  
ノ如キ都テノ文書ニ証印スルノ任アリ

統計官ハ其体裁組立方及ヒ評議役ノ廢棄ス可  
カラサル事ヲ以テ民事裁判所ニ彷彿タリ此官  
ノ事業ハ佛蘭西全國ニ被及ス地位ニ至テハ駁  
議裁判所ニ亞ク者ニシテ理財ニ拘ハリテ總括  
ノ体裁ヲ存ス此官ノ會合ハ後ニ説ク所ノ公明  
ノ説明ヲ為ス時ノ外ハ都テ隱密ナリ此官ハ政  
令ニ屬スル一箇ノ裁判所ナリ如何トナレバ此

官ノ決定書ハ駁議裁判所ニ上告スルヲナシト  
雖モ國議院ニ上告スルヲアレハナリ

職

統計官ノ職ヲ精細ニ了解セシメニカ為メニ一  
般ノ會計ノ大意ヲ茲ニ揭示ス  
一般ノ會計ヲ二種ニ分ツ錢財ノ取扱ニ関シテ  
ハ錢財會計ト云ヒ官庫ノ諸品運轉ニ関シテハ  
物品會計ト云フ此編ニ説ク所ハ即チ錢財會計  
ノミニシテ單ニ國ノ總會計ヲ説クノミ此會計  
ヲ又三種ニ分ツ即チ制法會計政令會計裁判會

計ナリ

制法會計ヲ左ニ掲ク

第一歳入ノ許可及ヒ歳出ノ投票千八百六十二  
年以來ハ之レカ為メニツノ法ヲ制ス一ハ平  
常ノ歳入出一ハ非常ノ歳入出ノ為ナリ  
第二歳入ヲ以テ歳出ニ充用シタルノ許可之レ  
カ為メニ勘定法ヲ制ス即チ一歳ノ仕拂期限ノ  
出入ヲ確定スルモノナリ歳入出ハ平常非常ヲ  
間ハズ仕拂期限ノ前ニ制法官ニ差出ス可シ制  
法官ニ於テ先キニ歳出額ヲ投票ス蓋シ入額ハ



出額ニ從テ投票セザレバ正實ノモノニ非サル  
カ故ナリ

千八百三十年ニハ簿冊ノ章毎ニ投票セリ千八  
百五十二年十二月廿五日ノセナエスコンシユル  
トヲ以テハ省毎ニ投票セリ千八百六十一年十  
二月三十一日ノセナエスコンシユルトヲ以テハ  
各省ノ簿冊ノ篇毎ニ投票シ此篇毎ニ投票シタ  
ル定額ヲ章ニ分配シ及ヒ同省中ニ於テ此ノ章  
ヨリ彼ノ章ニ定額ヲ流通スルハ國議院ノ議ヲ  
經テ作レル帝ノ制詔ヲ以テセリ千八百六十九

年九月八日ノセナエスコンシユルト以來歲出簿  
ハ其章及其目ヲ記シテ以テ制法官ニ差出シ章  
毎ニ投票シ千八百三十年ノ明細ノ仕方ヲ再採  
用シタリ此ノ如ク費用ヲ精密ニ吟味スルニ至  
リ始テ制法官ニ於テ確實ニ検査スルヲ得タリ  
若シ臨時ニ費用アルカ又ハ投票シタル定額ノ  
不足スル時ハ非常ノ入額ヲ起シ以テ之レニ充  
用ス舊例ハ國議院ニ於テ作ル所ノ帝ノ制詔ヲ  
以テ之ヲ起シ而シテ後ニ制法官ノ許可ヲ求ム  
リ千八百六十一年ノセナエスコンシユルト以來

非常入額ヲ起スハ法ヲ以スルヲ要セリ  
歳入出ノ勘定法ハ諸省長官ヨリ差出シタル  
配下ノ勘定ヲ許可スルモノナリ之ヲ名ケテ勘  
定法ト云フ

政令會計ハ拂方ヲ命スル人及ヒ勘定役ヨリ出  
シタル勘定ノ諸文書ニシテ平常ノ歳出入法及  
ヒ非常ノ歳出入法ト勘定法トノ間ニアリテ勘  
定ヲ詳明ニスルモノナリ

拂ヲ命スル人ト勘定役トハ兼職ス可ラズ拂ヲ  
命スル人ハ備ヘアル定額ヲ充用スルノ任アル

カ故ニ拂出シノ命令ヲ出スノ任アリ蓋シ拂ヲ  
命スル人ハ専ラ諸省長官及ヒ州知事及ヒ里長  
ナリ勘定役ハ受拂役出納役収納役預リ役等ノ  
如キ諸種ノ名稱ヲ以金錢ノ出納ヲ取扱フ者ヲ  
云フ

諸省長官ハ皆我カ管下ノ事務ニ付キ理財法ヲ  
以テ定メタル金額ヲ費ニ充ル事ヲ下命スルノ  
任ヤリ

諸省長官ハ拂出シヲ命スルノ權ヲ他人ニ授  
得可シ長官ヨリ直ニ命シタル命令ヲ仕拂命令

書ト名ツケ人ニ托シテ命シタル命令ヲ仕拂委  
任ト名ツク

拂出シテ命スルハ仕拂期限ヲ関キタル周成ヲ以テ仕

拂ノ一期限ト為ス其翌年七月三十一日迄ニ為スベシ而

シテ八月三十一日迄ハ拂出スベシ即チ八月三

十一日以テ閉期トナス

閉期ノ後ト雖モ拂残シノ餘金アル時ハ之ヲ弃

指スル事ナシ但之ヲ請取ルニ更ニ命令書ヲ請

ルヲ要スルノ三若シ此拂残シノ属シタル仕拂

期限ノ関日ヨリ五年ノ後ニ至ルハ弃捐スル事

アリ

期限ニ後レタル拂残シヲ仕拂スル為ニ次キノ

期限ニ於テ一个条ヲ設ケ以テ其拂ニ充ツ之レ

ヲ名ツケテ閉期後ノ残拂ト名ツク

五年ノ後ニ至ルト雖モ弃捐セザルノ件ヲ左ニ

示ス

官署ノ方ヨリ拂ヲ延引シタル時或ハ国議院

ニ上告スルニ依テ延引シタル時

此拂残シニ充ル為メニ次期ノ出入簿ニ一个條

ヲ設ク之レヲ名ツケテ消亡期限ノ残拂ト名ツ

理財ノ長官ハ拂ノ命令書及ヒ拂ノ委任ヲ誠ニ  
ニ行フタルヤ否ヲ監察ス諸省中ノ會計課ノ命  
令書ヲ取集メ及其省長官ノ命令書及ヒ委任ヲ  
確定スル為メニ簿書ヲ備フ此諸文書ヲ理財省  
ノ總會計課ニ取纏ム此時ヲ以テ諸勘定ノ結極  
ト為ス

裁判會計ハ統計官ニ托ス即チ茲ニ説ク所ノ統  
計官ノ職掌是ナリ  
統計官ハ裁判ノ職ト検査ノ職ト兼ヌ而シテ

裁判職ニアリテハ決定書ヲ作リ検査職ニアリ  
テハ布令書ヲ作ル

### 裁判職

統計官ノ裁判ノ權ハ錢財會計役ニハ及フト雖  
モ品物會計役及ヒ拂ヲ命スル人ニハ及ボス可  
カラズ此官ハ或ハ初終審裁判所ノ体裁ヲ以テ  
シ或ハ終審裁判所ノ体裁ヲ以テ裁断ス  
初終審裁判所ノ体裁ヲ以テ裁断スル事件ハ左  
ノ如シ

国債ノ勘定 一般ノ出納簿ニ加ヘタル格

ノ借入金ノ勘定 歳入三萬フランクヲ越へ  
タル里ノ教育所其他慈惠ノ建設及ヒ官  
業會社ノ勘定

終審裁判所ノ体裁ヲ以テ裁断スル事件ハ左ノ  
如シ

歳入三萬フランクヲ越へサル里ノ教育所其  
他慈惠ノ建設及ヒ官許工業會社ノ會計ニ付  
キ州知事評議所ニ於テ裁断シタル決定書ヲ  
破ル為メニ三ヶ月ノ期限内ニ上告シタル告  
訴

請取方ニ付テ統計官ハ請取ノ事ヲ司ル官吏ノ  
簿書ノ如ク正シク納メタルヤ否ヤヲ検査スレ  
ヲ任ス

仕拂ニ付テ此官ハ仕拂ノ正否ヲ正スヲ任ス  
仕拂人ハ法律及ヒ規則ヲ以テ規定シタル証書  
ノ副ヲタル名令書アラザレハ拂フ可カラス然  
レモ若シ拂ヲ命スル人ヨリ公文ヲ以テ命スル  
時ハ証書ノ副ヲナシト雖モ拂フ事アリ此時  
ニ當リテハ拂ヲ命スル人其責ニ任ス可ケル  
敢テ仕拂人ヲ罪スルヲ用ヒズ

統計官ハ決定書ヲ以テ勘定役ノ拂ヒ方ノ正シク皆濟シタルカ又拂残スカ或ハ拂ヒ過シカトヲ確定シ正シク皆濟シタル時ハ之ヲ答メズ拂ヒ残シアル時ハ嚴ニ命シテ之ヲ拂ハシメ拂ヒ過シタル時ハ其實否ヲ究窮シ決シテ負債ヲ国ニ存セシメズ

統計官ハ勘定役ノ不動産ニ及ベル収納抵當ノ權或ハ首得義務ノ權他ニ先チ首トシテ義務ヲ得可キノ權ヲ止メ或ハ他品ニ移スノ願ニ付テ裁断ス  
統計官ニ於テ裁断スルハ勘定役ノ公然タル名

義アル者ノミニ限ラズ假リニ其職ニ加ハリタルノミヲ以テ裁判ヲ受ク可シ或ル時ハ里長或ハ里僧等ノ此職ヲ兼ル事アリ是等ヲ名ツケテ假勘定役ト云フ  
一人或ハ数人ノ正算役ニ任シテ豫メ會計ヲ正サシメ然ル後評議役之レヲ検査ス  
正算役ハ課ニ加ハリテ已レノ意見ヲ述べ得可シト雖モ評定ノ權ヲ有セズ  
課ニ於テハ同意ノ多数ヲ以テ決定ス評定ニハ評定ノ權アル者五員ヨリ下ル可カラス

統計官ハ刑事ヲ裁判スル事ナシ

統計官ノ決定ヲ破壊スルノ道

再審請求

是ハ証書ヲ見出シタルカ違算ナルカ脱落アルカ過誤ナルカ或ハ一事ヲ重複シテ記載シタルカヲ以テ願ヒ出ルナリ

再審ヲ請求スルハ民事ニ於テノ歎願ノ如ク引戻シノ願ヒナリ因テ其決定ヲ為シタル課ニ宛テ差出ス可シ其為ニハ定限ナシ

国議院ニ上告スル事

是ハ權ヲ越タルカ不適當アルカ或ハ法ヲ破リタルカノ理ヲ以テ訴ルセリ此上告ハ決定ノ報知ヨリ三月間ニ為ス可シ若シ國議院ニ於テ決定ヲ破壊シタル時ハ其事務ヲ再ヒ統計官ノ他ノ課ニ送ル

検査職

統計官ノ検査ノ職ハ拂ヲ命スル人ト物品會計役ニ及フ

拂ヲ命スル人ヲ検査スルニハ年毎ニ三ツノ公文ヲ以テス即チ勘定ノ符合シタル総布令ニ通

ト帝ニ奉ル奏狀一通ナリ

勘定合算ノ布令ハ諸省長官ヨリ公告シタル一  
期勘定ト統計官ノ決定ト符合シタルヲ記スル  
モノナリ

統計官ノ各課ニ於テハ毎年諸省ノ勘定ト各課  
ノ決定ト符合シタルヲ確定スル所ノ勘定合算  
ノ布令ノ部分及ヒ理財ノ景況ノ畧説ヲ作ル  
統計官ハ一期ノ出入勘定比例表ノ布令ノ部分  
ヲ編輯シテ以テニツノ総布令書ヲ作ル一ハ一  
期ノ勘定ノ符合シタルヲ証シ一ハ理財ノ景況

ト一期ノ勘定ノ一致ヲ証ス然ラハ一ハ過去リ  
タル一期ノ理財ノ景況ヲ載セ一ハ現一期ノ景  
況ヲ載ス

勘定符合ノ總布令書ハ過去リタル仕拂期限ノ  
翌年九月一日前ニ理財長官ニ送達ス可シ此布  
令ハ上梓シテ制法官及ヒ上院ニ達ス

帝ニ奏スル奏問狀ハ統計官ノ處置ノ光景ト改  
正スベキ目的ヲ載ス是亦上梓シテ制法官及ヒ  
上院ニ達ス

物品會計役ハ武庫或ハ官庫中ニ在ル火藥硝石



材木毛織物等ノ如キ費用シ或ハ運轉ス可キ物  
品ヲ守ル為メニ任セリ此事ニ付テハ統計官ハ  
錢財會計ノ如ク決定書ヲ出ス事ナク唯布令ヲ  
出スノミ此職ヲ受タルモ僅ニ千八百四十五年  
以來ノ事ナリ

此事ニ付テハ統計官ハ裁判スルノ職ナク唯ニ  
検査スルノ職アルノミ如何トナレハ物品會計  
役ハ海陸軍ノ省ニ屬シ兵制ニ從ハシム可キカ  
故ナリ殊ニ不抜ノ裁判ヨリ出ル所ノ確乎メル  
決定書ヲ以テ政事及ヒ國事ニ親炙シタル職ニ

居ル勸定役ヲ負債人トスルヲ欲セサレハナリ  
此事ニ付テハ先ツ每事ニ會計ヲ正シ其後此勸  
定ノ光景ト長官ノ總會計ノ光景ト符合シタル  
ヲ証表スルタメ總布令ヲ作ル此事ニ付テモ亦  
帝ニ奏スル奏問状中ニ我目的ヲ載セ得可シ



大  
清  
省